

【特別寄稿】 「CoMSEP 合同公開講座」開催記

医療科学類 山内 一由

平成 27 年度の CoMSEP 合同公開講座を 2 月 14 日（日）、つくば国際会議場にて開催した。前日までの厳しい寒さとは打って変わって一気に気温が上昇したこの日、関東地方では春一番が観測された。突然の春の嵐で午前中は交通機関に大きな乱れが生じ、その影響もあってか来場者数は 73 名と少々控えめであった。それでも、ほとんどの聴講者から有益であったとの感想が聞かれ、主催者一同安堵している次第である。

本プログラムがスタートして 2 回目となる今回の合同公開講座では「専門職が行う研究」をテーマとして、臨床の現場で診療業務と研究活動を両立して活躍されているメディカルスタッフにご講演いただいた。

まず、理学療法士の立場から潤和会記念病院（宮崎市）の新地友和氏に「理学療法士が行う研究—自分の仕事を客観視するために—」と題してご講演いただいた。新地氏には、一貫して取り組んでおられる脳卒中麻痺患者のリハビリテーションに関わるご研究をご紹介いただくとともに、研究を通じて養われる問題解決能力の重要性について説いていただいた。



新地友和氏

続いて、臨床検査技師の立場から慶応義塾大学医学部附属病院中央臨床検査室の中川央充氏に「研究のすゝめ」と題してご講演いただいた。中川氏ご自身が歩まれてきたキャリアとその時々で関わってこられた研究についてご紹介いただきながら、福澤諭吉が鼓吹した実学の精神の重要性を説いていただいた。なお、中川氏は本学看護医療科学類（現医療科学類）の 1 回生である。



中川央充氏

最後に、診療放射線技師の立場から虎の門病院放射線部の福澤圭氏に「idea, humor, and more ! ~業務と研究と、時々、〇〇～」と題してご講演いただいた。福澤氏には、画像診断の精度向上を目指した画像処理方法および撮影方法の開発に関する研究についてご紹介いただくとともに、臨床の現場から研究テーマを発掘していく意義と醍醐味について説いていただいた。



福澤圭氏

いずれも示唆に富んだ骨太な内容であった。そして専門分野を異にする 3 氏が口を揃えて強調していたのが研究活動によってもたらされる付加価値の重要性についてであった。筆者は常々、チーム医療の実践には職種を超えた連携が必要であるが、高い専門性とそれによって生み出される多彩な付加価値が基盤になれば、表面的できわめて脆弱なチーム（もはやチームとは呼べない）しかつけないと考えている。3 氏の講演はそんな筆者にとって共感を覚えるものであった。

講演の後、CoMSEP 運営委員会と履修証明プログラム第 1 期生から本年度の活動報告が行われた。第 1 期生諸氏には、本プログラムの感想、

要望、さらには修了後の将来展望などについて率直に語っていただき、運営に携わる私達のみならず次年度からの履修を考えているメディカルスタッフにとっても大変参考になった。

次年度の公開講座は平成 29 年 2 月 14 日、本年度と同じくバレンタインデーの日曜日に茨城県立医療大学キャンパスで開催する予定である。第 1 期生諸氏の要望やアンケートの寄せていただいた方々のご意見に真摯に耳を傾け、有意義な公開講座の提供に努めていく所存である。是非とも多くのメディカルスタッフにご参加いただきたいと願っている。

筑波医療科学 第 12 巻 第 1 号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 磯辺智範 二宮治彦
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2016 年 3 月 30 日